

平成31年4月9日(水)

老球の細道474号

ルーキー(新入生)スペシャル

会津バスケットボール協会 室井 富仁

今は昔、K高校に転勤して赴任早々バスケットボール部の練習を見に行った。入学したばかりの1年生達がコート周囲に突っ立っていた。転勤して来たばかりの私は、その生徒たちにシューティングをやるように指示した。そしたら「先輩たちがコートに来るまで、1年生はボールをさわったり、勝手なことをやってはダメです」と生徒に言われた。

三々五々2年生、3年生達がコートに顔を見せて練習が始まった。1年生は練習が始まって、コート周囲で声を出し、ボール拾いをするだけだった。練習が終わると上級生はコートからすぐに去り、新入生はモップ掛けをしたり、練習用具をかたづけて帰った。このような悪しき上下関係を改革するのに半年くらいかかったらどうか。

昔の運動部は大学の体育会の悪しき上下関係「4年生神様、3年生天皇、2年生平民、1年生奴隷」などを真似て、上級生が威張りくさって、1年生が雑用をするという風潮がどこにも存在していた。特に、中学、高校などでは顧問の先生が野放し状態の部活動は上級生が権力を握り、無法地帯になることがよくあった。

そのために、せっかく部活動に夢を持ってやる気十分で、能力もある新入生が雑用や先輩への気遣いで疲れ、勉強やバスケットボールどころではなくなりリタイアしてしまうということがたくさんあった。私は運よく、高校、大学とリベラルな環境でバスケットボールができたので、そのような悪しき上下関係で悩むことはなかった。逆に、私の方が生意気で上級生たちを悩ませたと今でも先輩たちに指摘される。

学校では入学式が終わり、いよいよ新年度がスタートする。どこのチームでもどのような新入生が入部してくるか選手もコーチも楽しみだろう。部活動以外にも勉強や新たな人間関係などで、何かとストレス、プレッシャーのかかるルーキーたちを、悪しき上下関係でバスケットからリタイアさせてはいけない。新入生に対する付度が重要な時期だ。

だいぶ前になるが、京都大学アメリカンフットボール部が大学日本一に輝いていた頃、同部では当時考えられなかった「体育会イノベーション」の取り組みをしていた。雑用は4年生などの上級生が行い、1年生は雑用なしで練習と学校生活に慣れることに重点を置くということであった。同じような試みが、現在帝京大学ラグビー部や日本体育大学硬式野球部などで採用され、その結果両部とも大学日本一を達成しているという。

新入生に対してもう一つ注意しなければならないのは練習量である。期待の新人は「秘密兵器」などと呼ばれる。早くゲームに使いたくて上級生と同じ練習を最初からやらせてしまう。その結果怪我や過度の期待感でつぶれてしまい、その後本当に「秘密兵器」のままで終わってしまうことがある。

私は現役コーチの頃、新入生に対してはゴールデンウイーク頃まで「ルーキースペシャル」として上級生とは別メニューで練習させた。帰宅も早くさせて、部活動よりも学校生活に順応させることを優先させた。学業がうまくいかないと必ず部活を悪者にさせられる。

どこでも新人は「金の卵」とか「ダイヤモンドの原石」などと称されが、やり過ぎれば卵のようにすぐ壊れてしまい、大事にしすぎれば原石のまま終わってしまう。モチベーションが上がるこの時期、新入生を注意深く、思慮深く、大切に育て上げてほしい。